進地事だ

興に寄の一つ

フォーラムは2部構成。1部の講演では、マウンテンバイクのプロライダーで、日本サイクリングガイド協会の役員などを務める門田基志氏が、自身が企画・実施に携わる広島県と愛媛県との「しまなみ街道」を活用したサイクリング事業を紹介。「コース整備は走り手であるサイクリストの体験を反映することが重要」と話し、北海道サイクルツーリズム検討委員会理事で、北海道開発技術センター地域政策助言もあった。

ル計画

452㎡想定

2016.2.19 建設新聞

小学校、熊石校があ、熊石して水してき

新たなプールは25㍍×4コースを基本に、更衣室、シャワー室といったスペースを確保。水深は1㍍前後とし、屋根をビニール構造にするかなどは設計の中で固める。

建設地は、雲石小（熊石雲石町744）と熊石第一中（同492）の隣接地が有力。両校は、2017年度にも小中各1校体制へと再編する中での統合校と目されており、利便性の観点からこれらの周辺に整備する意向だ。

補助採択を受ければ設計1年、施工1年の2カ年事業で進める方針。その間の水泳授業は、乙部町民プールを利用する方向で協議している。

16年度に可能性調査

苫小牧市 水素利活用目指して

【苫小牧】苫小牧市は、次世代エネルギーとして期待される水素の利活用に向け取り組みを本格化させる。2016年度は民間企業を交えたプロジェクト会議の発足や、可能性調査の実施を予定している。

水素利用をめぐっては、燃料電池や燃料電池自動車（FCV）といった技術開発が進み、道内でも白糠町内でダムを活用した水素製造や、鹿追町内で家畜ふん尿を原料とするメタンガスからの水素抽出など、各種実証実験が進んでいる。

苫小牧市でも産学官が連携し、水素の地産地消を目指す北海道水素地域づくりプラットフォームに参画しているほか、15年度は北海道開発局や道、トヨタ自動車北海道、出光興産北海道製油所、北海道エアウォーターなどを交えた意見交換会を2度開催した。

16年度は関係費約800万円を予算計上し、可能性調査に取り掛かるほか、15年度の意見交換会に参加した団体・企業だけでなく関心のある企業にも門戸を開きプロジェクト会議を実施する考え。

所管する企業立地課では「国のロードマップでも2040年までの水素社会実現を目指しており、息の長い取り組みになる」と話している。

市民ホールのパブコメ募集

苫小牧市が基本構想策定

【苫小牧】苫小牧市は、仮称・苫小牧市民ホール建設の基本構想について、22日から3月22日までの1カ月間、パブリックコメントを募集する。構想は約1年かけてまとめてきたもので、ホールの基本的テーマなどで構成。文言などの最終調整を進めている。2016年度は、より具体的な基本計画の策定に入る。

市は市民会館や文化会館、科学センターなどいずれも市街地にある老朽化施設を集約し、複合化して改築する方針。

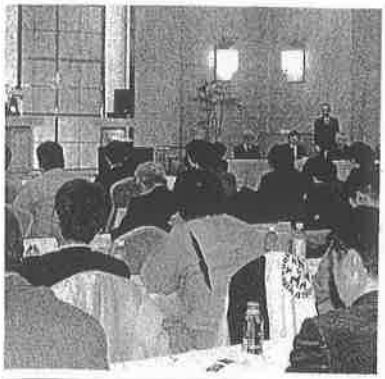
15年度は、北大大学院工学研究院に策定業務を委託したほか、並行して有識者や公募市民らで組織する検討委員会を設置し、基本構想づくりを進めてきた。

基本構想は①基本的テーマ②検討経緯③市民アンケートや複合施設の先行事例④基本計画に向けた考え方―の4章で構成する見通し。根幹となる基本的テーマをめぐっては、これまでの議論で家、学校、職場以外の第3の居場所という意味を込めた「サードプレイス」などといったキーワードが出てきている。

担当部署の市民ホール建設準備室によれば、16年度からの基本計画策定では施設構成やゾーニング、劇場の座席数をどの程度にするかといったより具体的な検討を進める予定で、市民意見を積極的に取り込むことも視野に入れている。

成果品目指して

測量設計協会の研修会



こを受
有用の
駐車
別途設
。高
バー
修正

広場
いて
なか

品質向上を目指し知識を深めた

た、管内の土砂災害危険箇所に関し、基礎調査が必要な1225カ所のうち360カ所が完了したと報告し、19年までの完了に向けて一層の協力を求めた。

環型森林経営プログラム研修会を開いた。林業関係者など約20人が参加し、各地の事例などを通講演。家畜の排せつ物を発電に活用した十勝地域など、過去に道内から選ばれた事例を紹介した。

また、農業ハウスへの

と実験を行い、設備の悪い点を指摘してもらう。改善していくことで、周りの農家も関心を持つようになる」と提案した。

新規で佐藤宅裏治山

渡島総合局東部森林室 16年度事業化要望

【函館】渡島総合局東部森林室は、函館市尾札部町地区の佐藤宅裏予防治山について、2016年度の新規事業化を目指している。山腹工で現場打ち吹き付け法枠の施工を計画。2カ年事業で総事業費約9000万円を試算している。

人家裏の法面から浮き石などの落石が発生する危険に対処しようと事業化を計画。16年度に採択されれば、年度早々にも実施設計を在来型指名競争で入札する。成果品完成後の秋口に、工事を制限付き一般競争入札で発注する見通しだ。

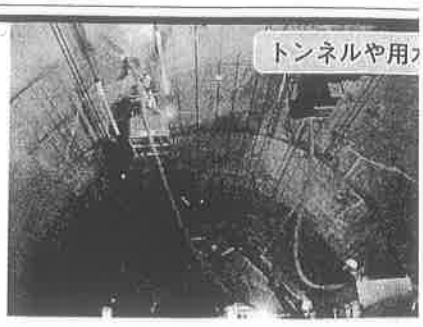
フリーフレーム工法を採用し、2350平方㍍程度を整備対象に現地でコンクリート法枠を打設する。16年度に1170平方㍍、17年度に1180平方㍍と両年度に同規模程度を施工する考えだ。

伊関氏を会長新任

ほか、後任の副会長に高橋千尋理事、新理事に福西秀輔事務局長、監事に

¥2,900（素泊まり）
平日のみ
¥3,700～
室2名）¥4,400～
室2名）¥6,700～
●有料駐車場あり（完全予約制）

長距離圧送型可塑性グラウト材工法
JETMS（ジェトムス）工法
JETMSの特長
●長距離圧送が可能
材料の流動性が優れているため配管抵抗が非常に少なく、2kmまで長距離圧送が可能です。
●環境に負荷を与えない材料
JETMSは従来の可塑性グラウトとは異なり、水ガ



The Tomakomai Mimpo

苫小牧民報

2016年（平成28年）
2月23日
火曜日

発行所　苫小牧民報社　〒053－8611　苫小牧市若草町３丁目１番８号　代表電話 0144(32)5311　月決め購読料（税込み）2,440円（1部120円）

２人入選 2
金利「好機」 4
から３連戦 10
月に開所 15

親近感持てるプラザ

苫小牧市 第３の居場所目指す

市民ホール構想案まとまる

苫小牧市は22日までに、老朽化した市民会館（旭町）と周辺施設を統合して整備する、新たな複合施設の基本構想案をまとめた。メーンテーマを「親近感と愛着を持てる憩いのプラザ（公共の広場）」と設定。文化や芸術に気軽に触れられ、用がなくても足を運びたくなる自宅、職場、学校とは異なる「第３の居場所」を目指す。これまでは仮称で「市民ホール」と呼んできたが、ホール機能に固執せず幅広い視点から議論していくため、「市民プラザ」の呼称を提案している。

基本構想案の策定に当たっては市民ホール建設検討委員会の大学教授や舞台技術の専門家、興行主、公募の市民ら７人の委員が中心となり、昨年５月から議論を進めてきた。

構想案は全４章構成で、具体的な建物の設計をする上での最上級の判断基準。施設の規模や機能、設置場所には言及していない。

構想案には「公共性」や「市民主体」「相乗効果」など七つの基本理念を設定。具体的には「施設の計画と設計、完成後の運営、維持管理への積極的な市民参画」「既存施設の集合という考え方を改め、新しい次世代施設の誕生を目指す」などとした。

基本的な機能として「活動」「鑑賞」「展示」「窓口」の四つを明記。市民の自主的な文化活動を推進するため、市民ニーズに応えるマネジメント組織を設け、プロ、アマ問わず、幅広く催しを受け入れられる柔軟性の高いホールを目標にするとしている。

検討委員長の森傑（すぐる）北大大学院工学研究院教授は基本構想を「今後の議論の優先順位の根拠になるもの。できるだけ多くの人に関心を持ってもらえるよう、表現を工夫した」としている。

基本構想は、２０１５年度内に策定。施設の具体的な中身に言及する基本計画については今後、ワーキンググループを設けた上で、16年度から２カ年かけてまとめる予定だ。

構想案への意見募集は、３月22日まで。問い合わせは市民ホール建設準備室　電話０１４４（３２）６０７１